

# REPORT.2

## 黑白写真の制作 ① [ 黑白フィルムを使う ]

黑白写真は、長い間、小規模に器具を揃えて手作業で制作してきた。写真店で制作したり、個人で制作してきた。今でも個人が制作する材料が写真用品として揃っており、作業は楽しく、成果の充実感もあるので、自分の手で納得のいく黑白作品を制作しよう。

銀塩感光材料を使う黑白写真の制作技術に関しては、次第に情報が少なくなっていくと考えられるので、今のうちに制作する技術をしっかり身につけておこう。銀塩の黑白写真制作は、先へ行くほど自分の手で作業しなければならないだろう。今日、デジタル写真にも黑白写真があり、撮影からプリントまでシステム化されている。いずれプリントはインクでとなるかもしれないが、撮影からネガづくりまでは銀塩の黑白フィルムを使い、従来からある黑白写真の雰囲気を保つことは重要だと思っている。撮影して、最初の画像は黑白フィルムで作っておこう。

ここで説明することは、個人レベルでの実用的な黑白写真制作の辞書的なものとなるよう構成してある。



## F 黑白写真制作で重要なこと

黑白写真は、被写体を平面(フィルム面)に凸レンズでとらえ、明暗と色を黒色、灰色、白色の濃い・うすい(濃度)で表したものである。発明期からカラー写真が実用化するまでは、普通に写真として扱われたが、今あらためて黑白写真を見ると、色の再現はされていないので、普通というより特別のものにも見える。でも、これは、写真表現の材料としては魅力をもっていると思う。

写真の発明のときに、凸レンズで平面に結像した画像を固定するために感光性物質として使われた銀化合物(ハロゲン化銀)が、

光の強弱(被写体の明暗)をとらえ、現像によって銀に還元され、これが無彩色であったことが始まり。すなわち、「被写体の形」、「明暗」、「色」の三要素のうち、「色」が再現できなかった。後に、これは解決して使いやすいカラーフィルムが開発され(1935年・コダクローム)、そしてカラー写真が普及して今日に至った。

黑白フィルムで撮影・現像して黑白ネガをつくり、これを引き伸ばしプリントする方法を構築し、撮影方法、現像処理の方法などの技術を駆使して、標準的な(ごく普通の)プリント制作を研究して、黑白写真のスタンダードをつくってきた。この方法で多くの記録・記念写真が制作され、社会に普及した。

黑白写真のスタンダードをベースにした作品制作が発展し、さらに表現目的にかなう黑白写真作品が研究され、自由に発想して制作されている。目的をもって黑白写真で表現をしていく考えである。黑白写真の制作は、自家処理の方法をとることにより、納得のいく作品を実現できるので、このことは、この上ない楽しさと充実感がある。

### C O N T E N T S

## REPORT.2

### 黑白写真の制作 ① [ 黑白フィルムを使う ]

■ 黑白写真制作で重要なこと	5
■ これからの黑白フィルム・使い方	9
■ 黑白フィルム現像処理のテクニック・まとめ	9
■ 上手な現像処理の方法と要点	13

### 1 黑白フィルムと標準現像

一つのフィルムが選ばれ、現像液が選ばれると、この組み合わせで適度の濃さと階調のネガがつけられる標準使用条件が決まる。フィルムを感度どおりに露光し、標準的な現像特性の現像液で一定の写真特性(プリントしやすい一般的な濃さと階調の)に現像する。黑白フィルムの標準現像である(写真①標準現像したネガ)。この目的に適う黑白フィルム用の代表的な現像液に、コダックD-76があり、その処方が発表され、処理剤が販売されている。この現像液は世界標準として、ユーザーが長く使ってきた。フィルムの感度を保ち、適度の階調に仕上がりに、微粒子に仕上がる標準的な現像液である。